



Innovation today, healthier tomorrows

# 大日本住友製薬株式会社 【証券コード：4506】

2020年11月24日

代表取締役社長

野村 博

## 将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

## 本日のご説明内容



医薬品業界



大日本住友製薬の概要



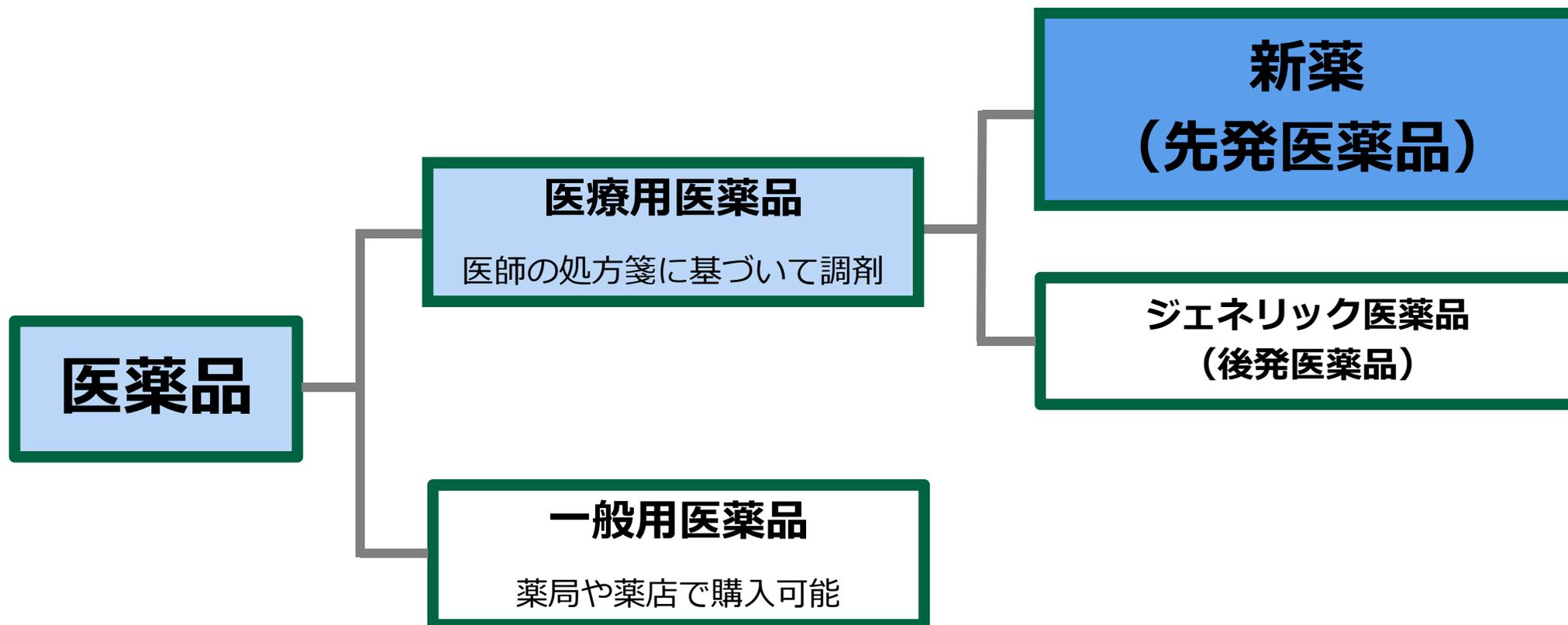
研究開発



経営成績、投資・株主還元方針



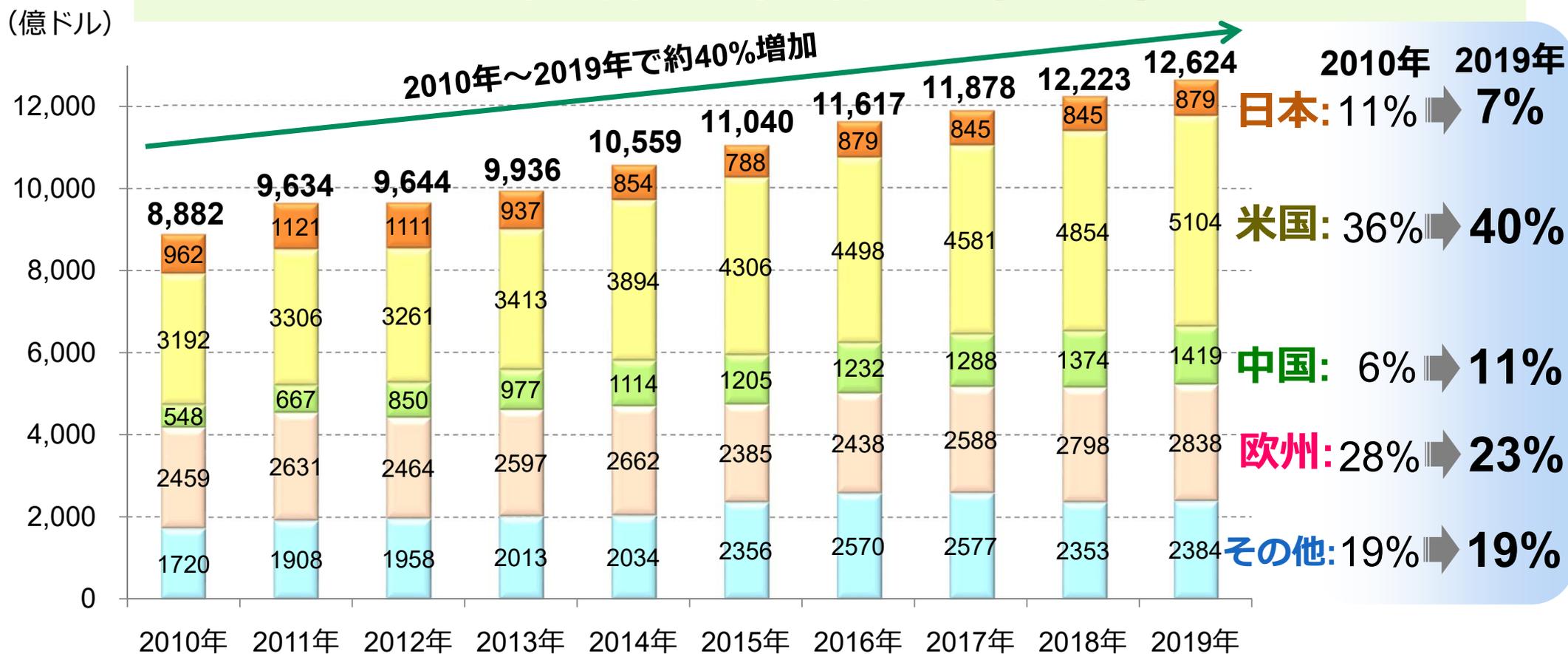
## 医薬品業界



# 世界の医薬品市場（販売額推移）（2019年）



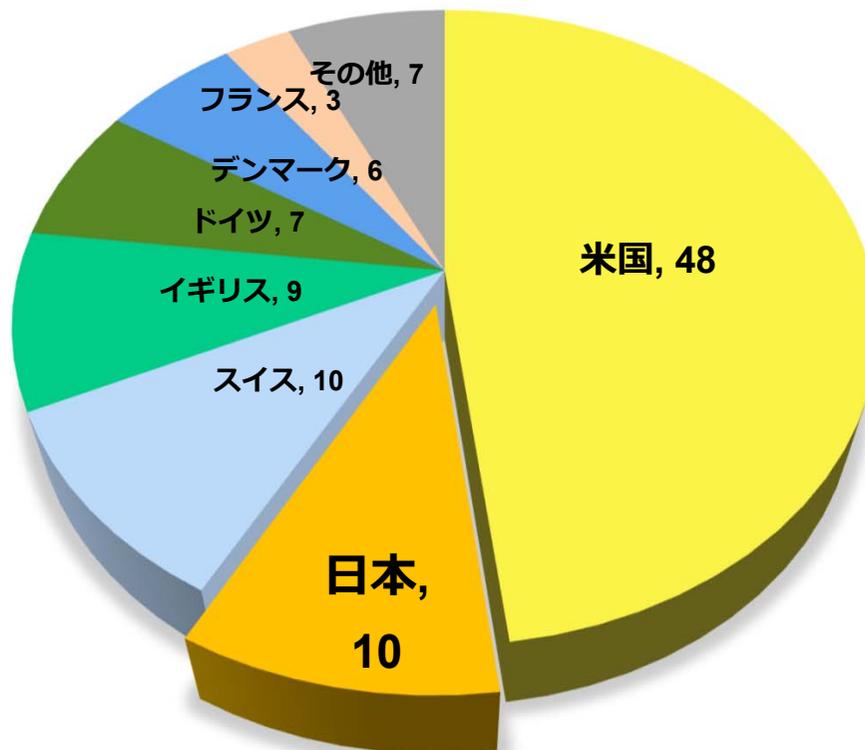
**1位 米国、2位 中国、3位 日本**



(出所: Copyright© 2020 IQVIA. IQVIA World Review Analyst 2010-2019をもとに医薬産業政策研究所にて作成 当社一部改変(無断転載禁止))



## 創薬力 1位米国、2位日本・スイス



（注：特許帰属企業の国籍による分類 2018年売上上位100品目を、オリジン企業国籍別に集計した

出所：Copyright© 2020 IQVIA. IQVIA World Review Analyst 2018, IQVIA Pipeline & New Product Intelligence, Pharmaprojects, Evaluate Pharma, Clarivate Analytics Integrity, Clarivate Analytics Derwent Innovationをもとに医薬産業政策研究所にて作成（無断転載禁止）

出典：医薬産業政策研究所 政策研ニュースNo.58（2019年11月）当社一部改変



新薬の開発期間 **9～16年**、成功確率 **約25,000分の1** (低分子医薬品)

2～3年

3～5年

3～7年

約1年

基礎研究

非臨床試験

臨床試験  
(治験)

フェーズ1: 少人数の健康成人（試験によっては患者さん）において安全性などを調査する試験

フェーズ2: 少人数の患者さんにおいて有効性・安全性・使い方を確認する試験

フェーズ3: 多数の患者さんにおいて有効性・安全性・使い方を確認する試験

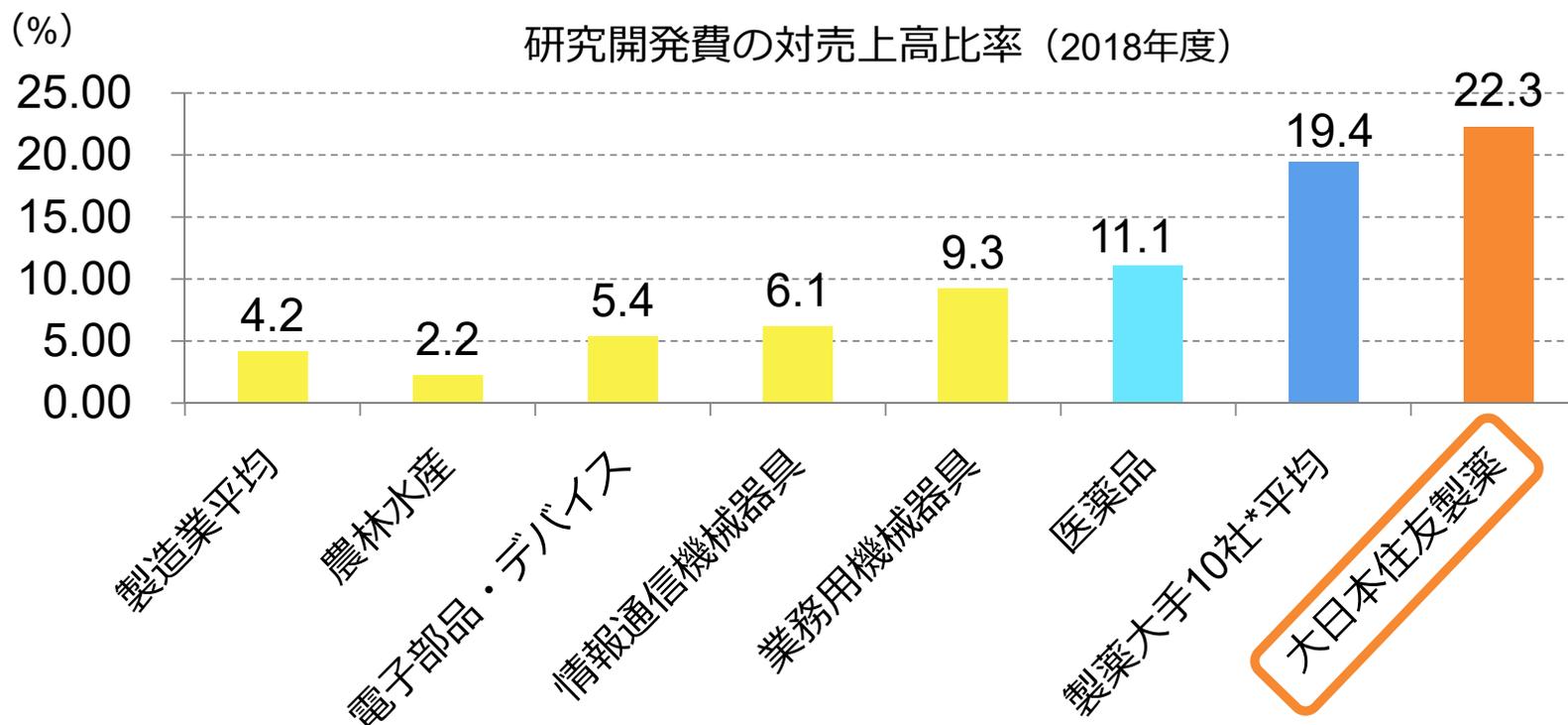
申請・審査

承認・販売

\* 非臨床試験：  
動物や培養細胞を使用し、薬の候補である物質の有効性と安全性を調べる試験



## 多額の研究開発投資



製薬大手10社  
平均研究開発費：  
1,517億円

大日本住友製薬  
研究開発費：  
1,024億円  
(対売上高比率22.3%)

(出所：厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」)

出所：SPEEDA (株式会社ユーザベース)、有価証券報告書 出典：日本製薬工業協会 DATA BOOK 2020より当社にて作成)

世界各国で後発医薬品の使用促進など医療費抑制が進むなか、当社は多額の研究開発費を投じ、新薬の創出を目指している。

\* 製薬大手10社：武田薬品工業、アステラス製薬、大塚ホールディングス、第一三共、エーザイ、大日本住友製薬、田辺三菱製薬、塩野義製薬、協和キリン、小野薬品工業



## 大日本住友製薬の概要



## 旧大日本製薬

- 1897年 (明治30年) 5月14日設立  
大阪・道修町の有力薬業家21名により、大阪製薬株式会社が設立される。
- 1898年 大阪・海老江に製薬工場(旧大阪総合センター)を設置。  
東京にあった半官半民の大日本製薬会社を吸収合併し、社名を大日本製薬株式会社に改称
- 1927年 気管支拡張・鎮咳剤「エフェドリン『ナガ耳』」新発売
- 1988年 米国駐在事務所開設  
末梢循環改善剤「プロレナール」発売
- 1998年 消化管運動機能改善剤「ガスモチン」発売

## 旧住友製薬

- 1944年 住友化学工業株式会社(現在の住友化学株式会社)が医薬品部門に進出
- 1984年 (昭和59年) 2月6日設立  
住友化学の医薬事業の研究、開発、製造部門と、住友化学の医薬品の販売総代理店であった稲畑産業株式会社の医薬販売部門を継承して、住友製薬株式会社が設立される。
- 1993年 Ca拮抗剤「アムロジン」発売
- 1995年 抗生物質製剤「メロペン」発売
- 1999年 住友製薬アメリカリミテッド設立



**2005年10月 大日本住友製薬 誕生**

### 企業理念

人々の健康で豊かな生活のために、  
研究開発を基盤とした新たな価値の創造により、広く社会に貢献する



## 研究開発力

研究重点3領域を中心とした特徴ある研究開発力

精神  
神経

がん

再生  
細胞

重点3領域

## 人材

個々の従業員の能力を活かす仕組みと優れた人材



## グローバル基盤

日本・米国・中国に現地本社機能・販売機能・開発機能など強固な基盤を有する



○ 当社グループ会社    ○ パートナー企業との提携



中期経営計画  
第一期 第二期 第三期 中期経営計画2022 (2018~2022年度)

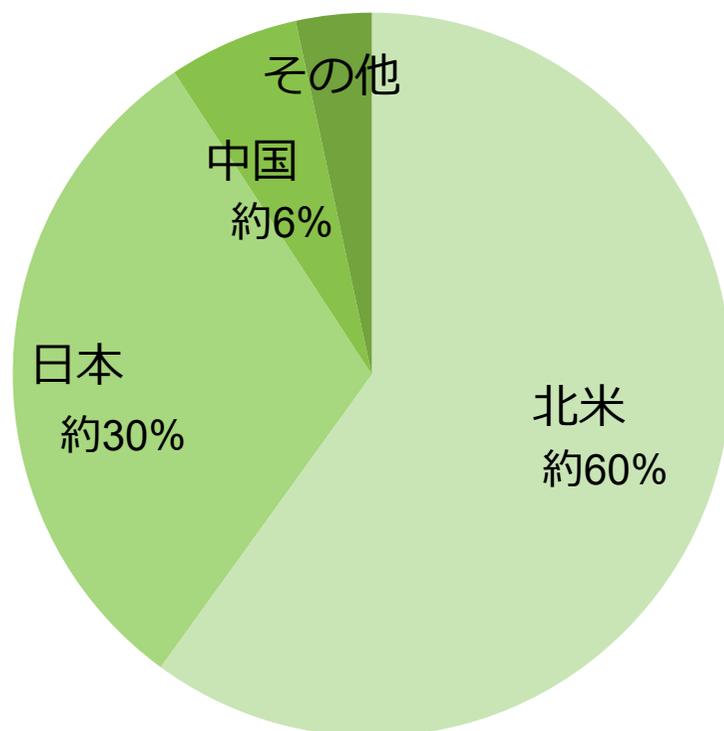


\* 2017年度から、IFRSを適用しています。 IFRS (コアベース)

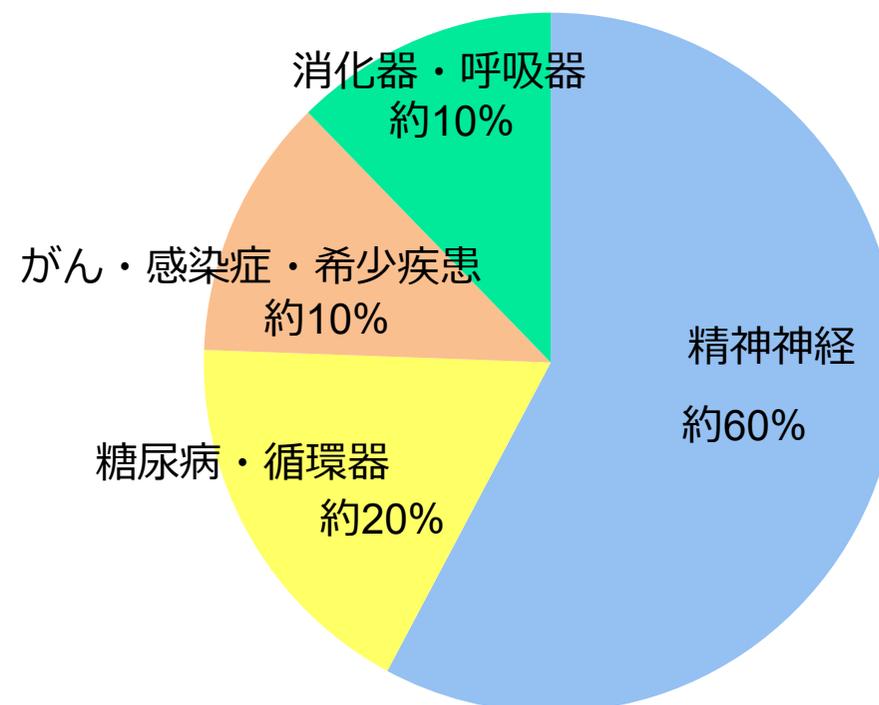
海外売上比率  
**約65%**  
  
2019年度  
売上収益合計  
**4,828億円**



医薬品 地域別



医薬品 領域別





- 自社創製品、米国で統合失調症治療剤として発売（2011年）、  
双極 I 型障害うつへの適応を追加（2013年）
- 北米売上収益は1,895億円（2019年度）、抗精神病薬で世界2位、  
精神神経領域で世界4位の売上
- 米国ラツーダの独占販売期間満了（2023年2月以降）は業績に大きく影響

● 抗精神病薬、精神神経領域製品 世界売上順位

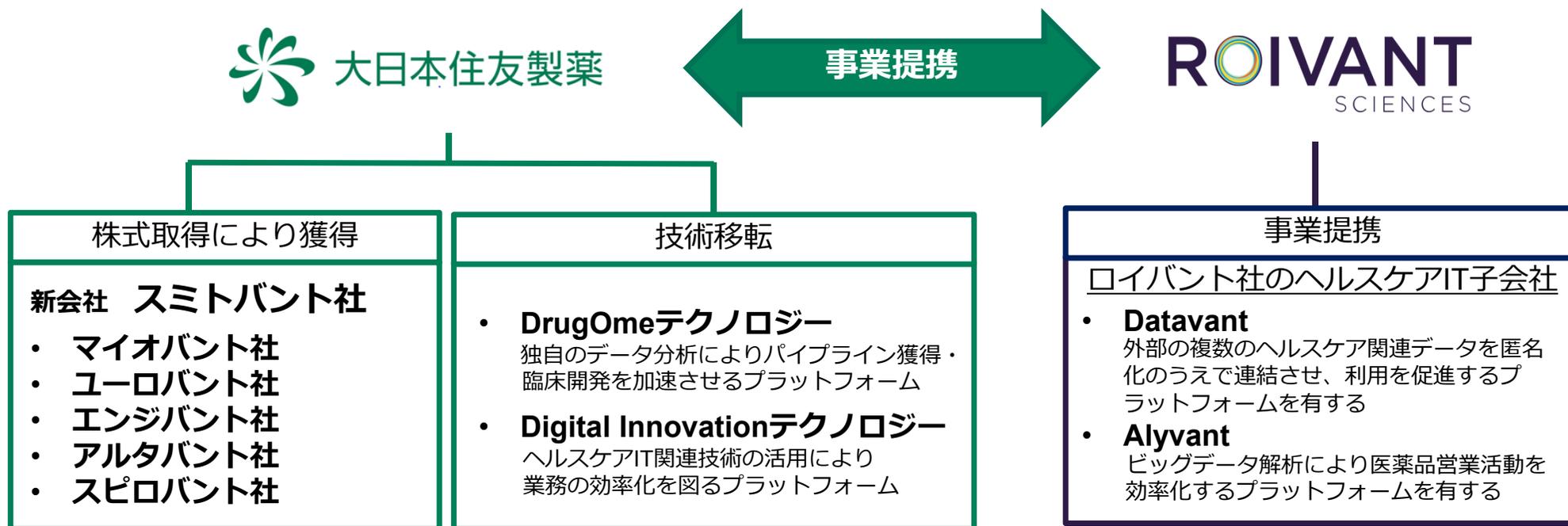
（百万ドル）

抗精神病薬順位	精神神経領域製品順位	製品名	主な適応疾患	企業名	2019年売上
1	1	ゼプリオン/インヴェガサステナ	統合失調症	J&J/Alkermes	3,598
-	2	リリカ	神経性疼痛/てんかん	Pfizer/イーザイ	3,584
-	3	ビバンセ/バイバンス	注意欠陥ADHD	武田	2,516
<b>2</b>	<b>4</b>	<b>ラツーダ</b>	<b>統合失調症/ 双極 I 型障害うつ</b>	<b>大日本住友</b>	<b>1,743</b>
-	5	ザイレム	ナルコレプシー	Jazz	1,643

（出典：研ファーマ・ブレイン発行「NEW Pharma Future 2020年6-7月号No.25」 当社一部改変）

## ロイバント社との戦略的提携（2019年12月手続き完了）

- 戦略的提携の対価：約30億米ドル（約3,300億円）
  - ・ 米国での「ラツォダ」の独占販売期間終了後の成長エンジンを獲得
  - ・ デジタル革新を加速



+ ヘルスケアテクノロジーに関わる人材、ロイバント社の株式の11%を取得

## ベストインクラスの化合物

既存薬はあるが、その既存薬に対して明確な優位性を持つ新薬（ベストインクラス）をロイバント社との戦略的提携によって複数獲得し、成長エンジンとする

開発品	予定適応症	開発段階	特長	起源	開発会社
レルゴリクス	前立腺がん	米国申請中 2020年度上市目標	現在の標準治療と比較して主要な心血管系イベントのリスクが54%低いことが示された	武田薬品工業(株)	マイオバント
	子宮筋腫	米国申請中 2021年度上市目標	ホルモン剤との合剤により、骨密度低下を抑制、ほてりを軽減し、長期服用が可能 1用量で1日1回服用		
		欧州申請中			
	子宮内膜症	フェーズ3			
ビベグロン	過活動膀胱(OAB)	米国申請中 2020年度上市目標	心臓への影響が低く、残尿感などの改善もよく、投与開始から効果発現までの期間が2週間と早い	Merck Sharp & Dohme Corp.	ユーロバント
	前立腺肥大症を伴うOAB	フェーズ3	この効能を対象とした既存薬はなく、初の同効能を有した治療薬になる可能性がある。		
	過敏性腸症候群関連疼痛	フェーズ2			



**ビジョン** もっと、ずっと、健やかに。  
最先端の技術と英知で、未来を切り拓く企業

変わりゆくヘルスケア領域での社会の課題を解決する企業として、  
2033年に「グローバル・スペシャライズド・プレーヤー」の地位を確立することを目指す





## 研究開発



アンメット・メディカル・ニーズの高い研究重点3領域を中心に、  
革新的な新薬の創出に全力を注ぐ

研究重点3領域

精神神経領域

がん領域

再生・細胞医薬分野

感染症領域

ベストインクラス  
(その他の領域)

フロンティア事業

\* アンメット・メディカル・ニーズ：いまだ満たされていない医療ニーズ、つまり、いまだ有効な治療方法がない疾患に対する医療ニーズ



## 精神神経領域

- ✓ 継続的に製品を創出してきた実績・自社で培った研究開発のノウハウを保有
- ✓ 先端技術を活用した創薬へ取り組む

(対象疾患：統合失調症、双極 I 型障害うつ等)

## がん領域

- ✓ 独自技術にフォーカスした研究開発に取り組む
- ✓ 当社グループ内およびアカデミアやベンチャーとの強固なネットワークを保有

(対象疾患：前立腺がん、結腸直腸がん等)

## 再生・細胞医薬分野

- ✓ iPS細胞由来の細胞医薬品の事業化を目指すトップランナー
- ✓ 世界初の他家iPS細胞\*由来の再生・細胞医薬品専用の商業用製造施設(SMaRT)を保有

(対象疾患：パーキンソン病、加齢黄斑変性等)

## 感染症領域

- ✓ グローバルヘルスに貢献
- ✓ 薬剤耐性菌感染症治療薬、マラリア・インフルエンザワクチンについてアカデミア等との共同研究実施中

## ベストインクラス

- ✓ ロイバント社との提携によるパイプラインの拡充
- ✓ 日本において注力している糖尿病領域の医薬品開発

## フロンティア事業

- ✓ 医薬品以外のヘルスケア領域での新規事業
- ✓ 優れた科学者、核となる技術やネットワークなどとのコラボレーション

\* 他家iPS細胞：患者以外の健常人から細胞を採取

# 主な開発品目一覧 (2020年10月28日現在)



: 精神神経領域
  : がん領域
  : 再生・細胞医薬分野
  : その他の領域
  : フロンティア事業

地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	
日本	SEP-363856 (統合失調症)	dubermatinib (TP-0903) (固形がん)	SEP-4199 (双極 I 型障害うつ)	EPI-743 (リー脳症)	イメグリミン (2型糖尿病)
	EPI-589 (筋萎縮性側索硬化症)		DSP-7888 (固形がん)	ナバブカシン (結腸直腸がん)	
	DSP-1181 (強迫性障害)		他家iPS細胞由来細胞医薬 (パーキンソン病) 医師主導治験	SMC-01 (2型糖尿病管理指導アプリ)	
米国	DSP-6745 (パーキンソン病に伴う精神病症状)	alvocidib (MDS)	EPI-589 (パーキンソン病/ALS)	SEP-363856 (統合失調症)	レルゴリクス (前立腺がん)
	SEP-378608 (双極性障害)	dubermatinib (TP-0903) (固形がん)	SEP-363856 (パーキンソン病に伴う精神病症状)	ナバブカシン (結腸直腸がん)	RVT-802 (小児先天性無胸腺症) 審査結果通知を受領
	DSP-3905 (神経障害性疼痛)	DSP-0509 (固形がん)	SEP-4199 (双極 I 型障害うつ)	レルゴリクス (子宮内膜症)	ビベグロン (過活動膀胱)
	SEP-378614 (治療抵抗性うつ)	TP-0184 (固形がん/血液がん)	alvocidib (AML)	ビベグロン (前立腺肥大症を伴う 過活動膀胱)	レルゴリクス (子宮筋腫)
	SEP-380135 (アルツハイマー病に伴う行動障害)	DSP-0337 (固形がん)	DSP-7888 (固形がん)		
		TP-1287 (固形がん)	ビベグロン (過敏性腸症候群関連疼痛)		
		TP-3654 (固形がん/血液がん)	rodatristat ethyl (肺動脈性肺高血圧症)		
		TP-1454 (固形がん)	URO-902 (過活動膀胱)		
欧州				レルゴリクス (子宮筋腫)	

赤枠：次ページ以降で説明



オープンイノベーションを基軸に、高度な工業化・生産技術（SMaRT）と最先端サイエンスを追求する当社独自の成長モデルに、CDMO事業も加え、より早期の事業化を図る

**日米中心に次期中計期間（2023～2027年度）からの収益貢献を目指す**

（2020年10月28日現在）

予定適応症等	連携先	予定地域	細胞種	実施状況
小児先天性無胸腺症 (RVT-802)	デューク大学	グローバル	培養胸腺組織	再申請に向けて準備中（米国）
加齢黄斑変性	ヘリオス 理化学研究所	グローバル	他家iPS細胞由来 網膜色素上皮	臨床研究実施中 企業治験開始に向けて準備中（日本）
パーキンソン病 (先駆け審査指定制度対象)	京都大学iPS 細胞研究所 (CiRA)	グローバル	他家iPS細胞由来 ドパミン神経前駆細胞	医師主導治験実施中 (フェーズ1/2試験)（日本）
網膜色素変性	理化学研究所	グローバル	他家iPS細胞由来 網膜シート（立体組織）	臨床研究実施中
脊髄損傷	慶應義塾大学 大阪医療センター	グローバル	他家iPS細胞由来 神経前駆細胞	臨床研究実施中
腎不全	東京慈恵会医科大学 バイオス ポル・メド・テック	日本 北米	自家／他家iPS細胞由来 ネフロン前駆細胞（立体臓器）	非臨床試験実施中

2020年度 治験開始目標

2022年度 上市目標\*

\* 上市目標は連携先との合意ではない当社の目標

赤枠：次ページ以降で説明



### パーキンソン病

- 患者数：米国 約110万人/ 日本 約16万人
- 主な症状：運動機能障害  
(黒質/線条体ドパミン神経の変性に伴って出現)
- 現在の治療方法：(症状を緩和させるための) 薬物療法、リハビリテーション



**安静時振戦**  
手、足、あごなどのふるえ



**筋強剛**  
検査者が患者の関節を動かすと抵抗がある



**動作緩慢・無動**  
動作が遅くなり、少なくなる

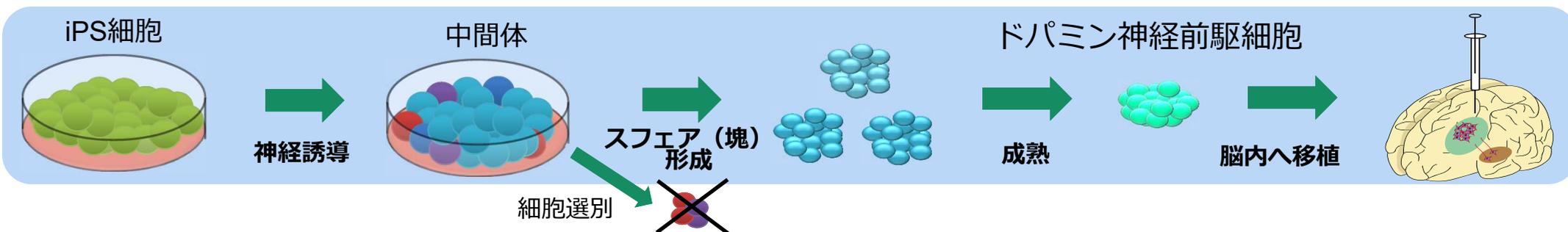


**姿勢反射障害**  
体のバランスが悪く、倒れやすくなる

**iPS細胞から作製したドパミン神経前駆細胞をパーキンソン病患者に移植し、分泌・補充されるドパミンによりパーキンソン病の神経症状の改善を目指す**

### パーキンソン病の四大症状

岡本智子：パーキンソン病とは、村田美穂編著、やさしいパーキンソン病の自己管理 改訂版、医薬ジャーナル社、東京、p11, 2012



- **京都大学医学部附属病院・京都大学iPS細胞研究所 (CiRA) による医師主導治験実施中**  
・ 2018年8月に治験開始、2019年に7例中3例の移植完了、2020年度に残り4例の移植予定
- **当社は医師主導治験の結果を基に事業化を進め、2022年度に上市予定**

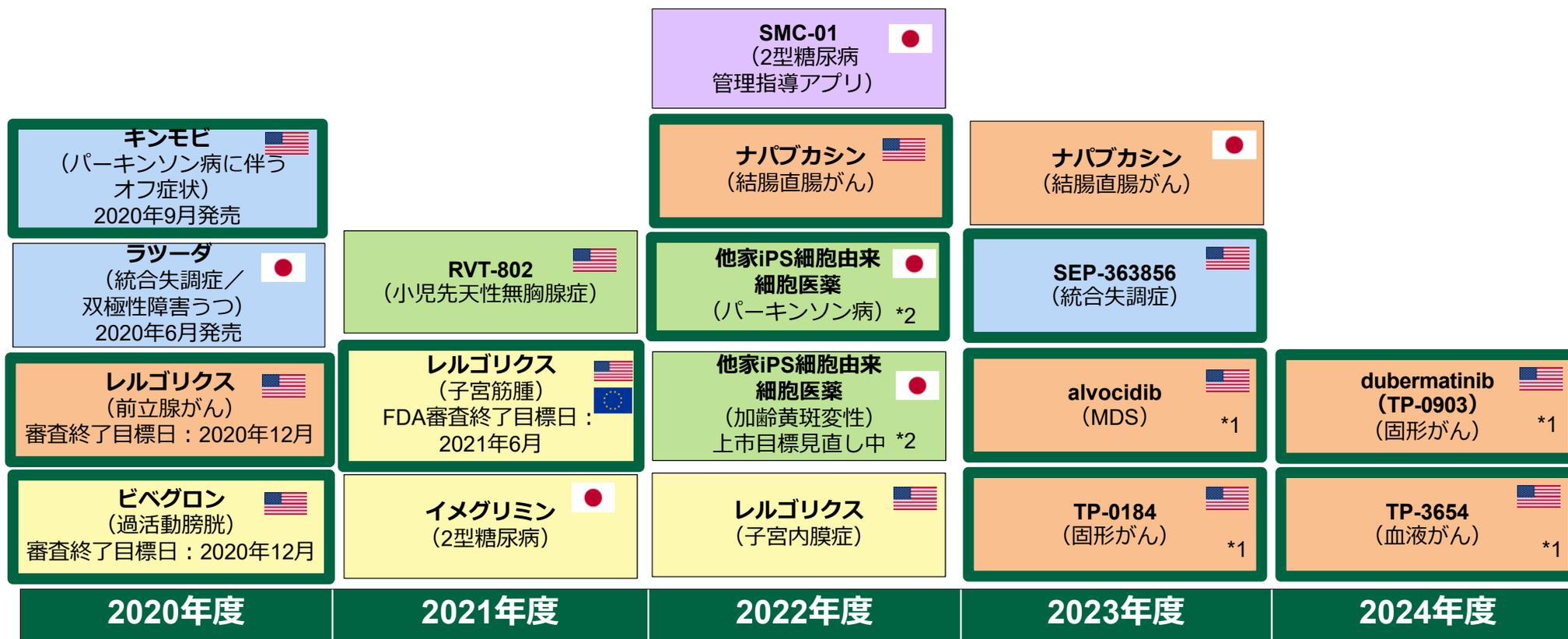


「求められる健やかさ」を医薬品のみで実現することが困難な時代の到来

フロンティア事業ビジョン 医薬品と一体となり「多様な健やかさ」を実現する

(2020年10月28日現在)

対象疾患	内容	連携先	予定地域	実施状況	目標
糖尿病	糖尿病管理指導用モバイルアプリケーション (SMC-01)	Save Medical	日本	フェーズ3試験を開始 (2020年5月)	医療機器として2022年度上市目標
糖尿病	低疼痛自動採血・保存デバイス“OneDraw”	Drawbridge Health	日本	糖尿病などの診断・管理ソリューションに関する共同研究開発契約を締結 (2020年10月)	2020年度中の非臨床試験完了 2021年度の治験開始 2022年度の国内申請を目指す
認知症	行動・心理症状 (BPSD) を緩和させるデジタル機器	SOMPO Aikomi	日本	研究開発と事業化の連携に基本合意 (2020年7月)	医療機器として開発を目指す
社交不安障害	社交不安障害を緩和するためのVRコンテンツ	BehaVR	米国	共同開発契約を締結 (2020年6月)	非医療機器として2022年度上市目標、将来は医療機器として製品化を目指す



- : 精神神経領域
- : 再生・細胞医薬分野
- : フロンティア事業

- : がん領域
- : その他の領域

ピーク時: グローバル売上が500億円規模またはそれ以上を期待する品目 (最初の上市に記載)

\*1 迅速承認制度活用を前提 (今後、FDAと協議予定)  
 \*2 連携先との合意ではない当社の目標



## 経営成績、投資・株主還元方針



# 経営成績、投資・株主還元方針

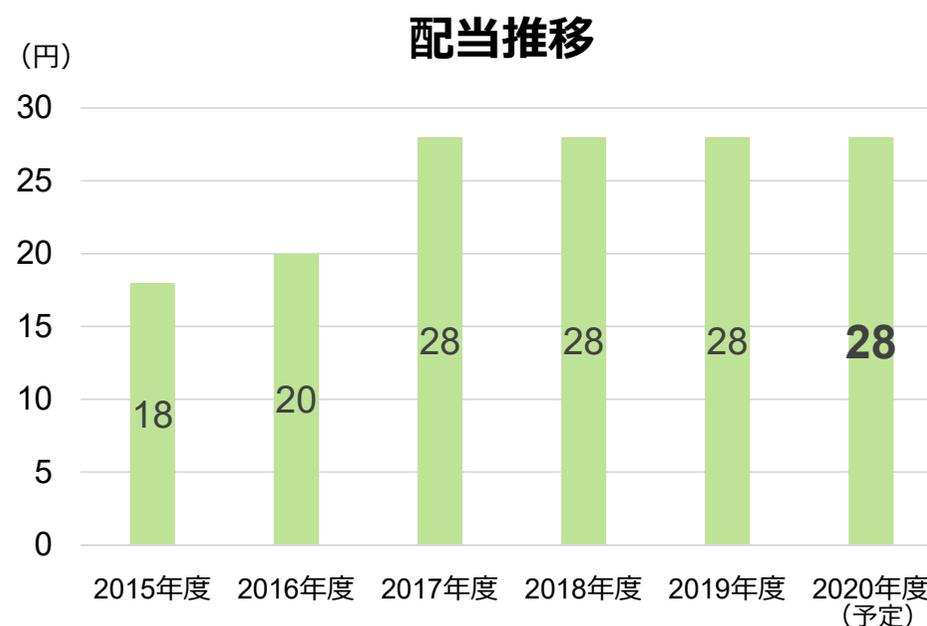
IFRS（国際会計基準）	2018年度 （実績）	2019年度 （実績）	2020年度 （予定）
売上収益（億円）	4,593	4,828	5,060
コア営業利益（億円）	773	720	470
1株当たり配当金（円）	28.00	28.00	28.00
連結配当性向（%）	22.9	27.3	26.5
投下資本利益率 （ROIC）（%）	11.8	3.3	1.2
自己資本当期利益率 （ROE）（%）	10.2	7.9	7.7

ROIC：（コア営業利益－法人所得税）÷（株主資本＋有利子負債）

ROE：当期利益÷株主資本

- **ROE**：長期的にROE10%以上を目指す
- **研究開発投資**：中計2022目標「5年間で4,500億円」を上回る見込みだが、研究開発投資の効率化を図る方針
- **戦略投資**：中計2022目標「5年間で3,000-6,000億円」のうち3,300億円を実施済  
当面は大型投資は実施せず、パイプライン獲得目的での投資は引き続き検討予定

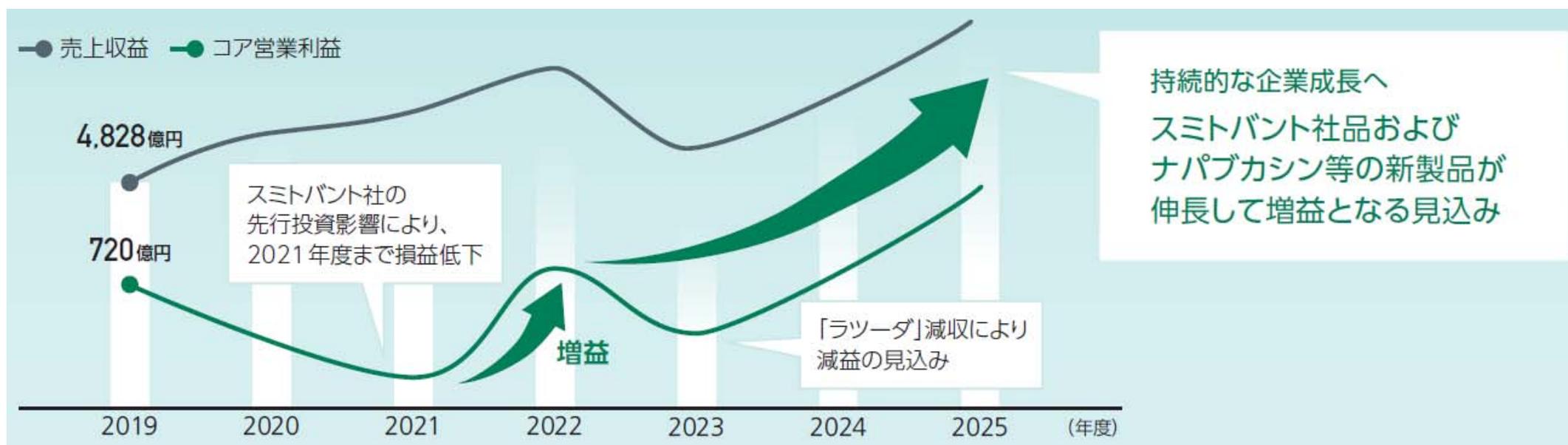
- 安定的な配当に加えて、業績向上に連動した増配を実施
- 5年間（2018～2022年度）平均の配当性向：20%以上





# 2022年度経営目標は見直し中

ロイバント社との戦略的提携による業績影響を踏まえ  
2022年度の中期経営計画目標値は、2020年度中に見直し予定



(ご参考) 2020年度以降の損益イメージ (2020年1月公表)



株式の数（2020年9月30日現在）

発行可能株式数	1,500,000,000株		
発行済株式の総数	397,900,154株		
主な大株主（持株比率）	住友化学株式会社	51.76 %	
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	7.85 %	
	稲畑産業株式会社	4.43 %	



ご参考（2020年11月19日現在）

株価： 1,386円

配当利回り： 2.02%

時価総額 約5,500億円

JPX日経インデックス400構成銘柄

# 個人投資家様向けIR活動のご紹介

WEBサイト：株主・投資家の皆様へ

<https://www.ds-pharma.co.jp/ir/>

決算資料などの情報や説明会の動画を掲載



**個人投資家様用  
IRニュースメール配信**  
ご登録いただきますと、  
当社のニュースリリースやIR情報等の新着情報を  
e-mailにてお知らせします



## 参考資料

合併期日	2005年10月1日 (大日本製薬と住友製薬が合併し発足)
資本金	224億円
代表者	野村 博 (代表取締役社長)
本社所在地	大阪本社：大阪市中央区道修町2-6-8 東京本社：東京都中央区京橋1-13-1
従業員数	連結：6,596名、単体：3,073名 (2020年9月30日現在)
売上収益	4,828億円 (2019年度)
研究開発費	926億円 (2019年度)
コア営業利益	720億円 (2019年度)
証券コード	4506 (東証一部) 単元株式数100株



野村 博

## \*国際会計基準 (IFRS) の適用について

2017年度より国際会計基準 (IFRS) を適用し、経常的な収益性を示す利益指標として「コア営業利益」を採用しています。  
(コア営業利益：営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益 (非経常項目) を除外したもの)

# 日本・北米・中国を柱とした地域戦略

## 欧州

自販やパートナー企業との連携による事業拡大

- ✓ サノビオン・ファーマシューティカルズ・ヨーロッパ・リミテッド (英国)

## 日本

次期中計期間の売上2,000億円達成に向けた基盤づくり

- ✓ 大日本住友製薬

## 北米

ポスト・ラツォーダを見据えた成長路線の確立

- ✓ スミトモダイニッポンファーマアメリカ・インク (米国)
- ✓ サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク (米国)
- ✓ スミトモダイニッポンファーマオンコロジー・インク (米国)
- ✓ スミトバント・バイオフィーマ・インク (米国)
- ✓ マイオバント・バイオフィーマ・インク (米国)
- ✓ ユーロバント・サイエンシズ・リミテッド (米国) など

## 中国・アジア

成長市場としての足場固め

- ✓ 住友製薬 (蘇州) 有限公司 (中国)

## 東・東南アジア

- ✓ スミトモ・ファーマシューティカルズ・アジア・パシフィック・プライベート・リミテッド (シンガポール)
- ✓ スミトモ・ファーマシューティカルズ (タイランド) ・カンパニー・リミテッド (タイ)
- ✓ 台湾住友医薬股份有限公司 (台湾)

## オセアニア

パートナー企業との連携

## 中南米

パートナー企業との連携

- : 研究開発部門
- : 販売部門
- : 地域統括・情報提供・収集拠点

日本セグメント

■ 売上収益：1,533億円（2020年度予想）  
1,397億円（2019年度実績）

■ MR 数：1,210名（2020年9月30日現在）  
※うち、CNS MR 約350名

営業重点領域

- 精神神経領域：トレリーフ®（パーキンソン病）、ラゾダ®（統合失調症・双極性障害のうつ症状）、ロナセン®テープ（統合失調症）、イフェクサー®（うつ病：プロモーション提携）、
- 糖尿病領域：トルリシティ®、エクア®、エクメット®、メトグルコ®
- スペシャルティ領域※：リプレガル®（ファブリー病）、アムビゾーム®（深在性真菌症）、レミッチ®（そう痒症：プロモーション提携）

※アンメット・メディカル・ニーズが高く、高度な専門性が求められる領域

主要製品

トレリーフ®

売上収益	162億円（2019年度）
発売日	2009年3月
特長	レボドパ賦活型 パーキンソン病治療薬



トルリシティ®

売上収益	300億円（2019年度）
発売日	2015年9月
特長	・週1回投与のGLP-1受容体作動薬 ・アテオスという1回使いきりのオートインジェクター型注入器によって提供



北米セグメント

- 売上収益：2,721億円（2020年度予想）  
2,623億円（2019年度実績）
- MR 数：570名（2020年9月30日現在）

2009年10月にサノビオン社（旧セプラコール社）を子会社化

会社名	サノビオン・ファーマシューティカルズ・インク
設立年月	1984年1月
決算期	3月末
場所	米国マサチューセッツ州マールボロ
従業員数	1,450名（2020年9月30日現在）

営業重点領域

- 精神神経領域：ラツダ、アプティオム、キンモビ
- 慢性閉塞性肺疾患（COPD）領域：ブロバナ、ロンハラ マグネア

主要製品

LATUDA®（ラツダ）

売上収益	1,895億円（1,743百万ドル） （2019年度）
発売日	2011年2月
効能	統合失調症、双極 I 型障害うつ
特長	ドパミン D <sub>2</sub> 、セロトニン 5-HT <sub>2A</sub> 、セロトニン5-HT <sub>2</sub> 受容体に親和性を示し、アンタゴニストとして作用



BROVANA®（ブロバナ）

売上収益	345億円（317百万ドル） （2019年度）
発売日	2007年4月
効能	慢性閉塞性肺疾患（COPD）
特長	COPDの維持療法に使用される気管支拡張薬の吸入液



## コーポレートガバナンスとCSR (1)

### ➤ コーポレートガバナンス体制

- ✓ 取締役会の多様性の追求（取締役：8名、うち社外取締役3名）
- ✓ 取締役会の実効性の向上

### ➤ 人材育成

- ✓ 個の能力を高めるための全社的教育プログラムの推進
- ✓ 各階層におけるリーダー人材の育成（DSP Academyの継続）
  - 2016年7月に能力別の選抜型研修として「DSP Academy」（経営塾を含む）を設立（年間80名受講）

### ➤ ダイバーシティ&インクルージョン

- ✓ 女性社員のキャリアアップに向けた取り組みの強化
  - 女性管理職比率10%以上（2020年目標）を2019年4月に前倒しで達成（2020年4月時点12.2%）
- ✓ 特例子会社を含め、障がい者の適材適所での活躍推進

### ➤ 環境

- ✓ 低炭素社会構築に貢献
  - CO<sub>2</sub>排出量目標（対2017年度比）  
35%削減（2030年度までに）
  - 企業版2°C目標（SBT）認定取得を目指す

\* SBT : Science Based Targets

## コーポレートガバナンスとCSR (2)

### 国連SDGsの達成への貢献に向けて、CSR経営の更なる深化を目指す

#### ● CSR経営の推進

当社のCSR経営 = 企業理念の実践 ➡ 企業としての社会的責任を果たす

<主な取り組み>

- ✓ 実効性のあるコーポレート・ガバナンス体制の追求
- ✓ ダイバーシティ & インクルージョンの推進
- ✓ コンプライアンスの徹底
- ✓ 人材育成
- ✓ 国内外での社会貢献活動

#### ● 国連SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けて

事業を通じて「健康と福祉」をはじめ、幅広い社会課題の解決に貢献していく



(ご参考) 社会的責任投資指数採用

MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

FTSE4Good Index Series

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

FTSE Blossom Japan Index

SUSTAINA ESG AWARD

SOMPOサステナビリティ・インデックス



Innovation today, healthier tomorrows